

復興を担う子どもたちへ
「生き抜く力」で
活躍していったほしい

なんこう いっぺい
南郷 市兵

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 副校長

昭和53年（1978）、東京都生まれ。
慶應義塾大学卒業後、IT企業勤務を経て文部科学省入省。
震災後は、被災三県の連絡調整を担当。創造的復興教育を目指して
開校前からふたば未来学園に関わってきた。
文部科学省初等中等教育局 視学委員。

震災直後から、私は数え切れないほど被災三県に足を運びました。
子どもたちの声に耳を傾け、彼らがこの先、厳しい現実を乗り越えるためには
「何が必要か」をずっと考え続けています。「大人の責任として、教育をきちんと
考えなくてはならない」と双葉地方8町村の教育長と話し合う中で、この思いを
強くしてきました。復興を担う子どもたちに必要なのは、「生き抜く力」。
2015年4月に開校した「ふたば未来学園」では、高校生が主体的に震災後の
地域課題や背景を探り、それらを乗り越えて持続可能な地域をつくるための
実践的なプロジェクト「未来創造探究」に取り組んできました。
再生可能エネルギー、原子力防災、アグリビジネスなど、全部で6つのゼミがあり、
生徒たちは学校の外に出て、大人と、社会と関わっています。
2020年春、三期生の高校卒業時アンケートでは、「学びを通して社会と
どう関わっていききたいか見いだした」という回答が8割以上。
多くの生徒が明確な目的意識をもって巣立っていったことが分かりました。
自分で考え、判断し、挑戦していける若者が、地域で世界で、
どう活躍してくれるのか期待して見守っていききたいと思います。



日本の新たな教育のモデルとなるカリキュラムで
中高生が学ぶ